

「消費者団体と東京都との協働による学習会」

多摩地域の市民活動交流会

報告

～つながりをひろげよう～



司会: 村橋悠弁護士
(多摩パブリック法律事務所)

日時: 7月7日(金) 10:30~15:30
会場: 東京都多摩消費生活センター 教室 I・II
参加者: 67名
主催: 「多摩地域の消費者団体交流会」実行委員会



東京消費者団体
連絡センター
小浦道子事務局長

【開会挨拶】6回目となる今年の交流会は、内容の幅を広げ、地域でいろいろなことに取り組まれている市民団体の方々の報告を聞き、これからの連携や新しい活動づくりを考える機会にしたいと思います。

午前【リレー報告】

- ① 調布市社会福祉協議会
- ② 八王子市シルバーふらっと相談室館ヶ丘
- ③ 清瀬視覚障害者グループ「あかり」
- ④ ARCH(アーチ)
- ⑤ 学び塾「猫の足あと」

午後【基調講演】

『地域でのネットワーク構築の必要性』

【ワークショップ】

東京都消費生活総合センター
工藤穰治所長



【東京都挨拶】この交流会は、地域で活動するためにはどうつながり、何ができるかをみんなで考え話し合う意味深い会だと思えます。国を含め東京都では、高齢者の消費者被害防止のために地域での見守りネットワークの構築が喫緊の課題となっています。消費生活部門と福祉部門がつながっていくことができれば、高齢者の見守りにもつながることができると思っていますので、活発な議論を重ねていただきたいと思います。

リレー報告 (活動紹介)

ひだまりサロン

平成 17 年: 14 か所

平成 28 年: 100 か所

閉じこもりや孤立予防を目的に、ご近所同士が気軽に集い、お茶やお食事をしながら、おしゃべりや趣味活動など楽しい時間を過ごすところです。

スタッフは、民生委員、自治会、子育てママ、ボランティアグループ、地域住民

<活動場所と活動内容>

地域福祉センター お茶とおしゃべり、食事の提供、市民団体による歌、踊り、演奏等

団地集会所 自治会が中心に活動。おしゃべり、体操、歌など

自宅解放 食事、おしゃべり、歌など

子育てサロン スタッフは子育て中のママ。広報はフェイスブック、ツイッター

10年で『ひだまりサロン』が認知され活動も多様化し広まりを見せました。これからは質を重視し地域のためになるように社会福祉協議会として支援していきたいです。



調布市社会福祉協議会
三浦雅史さん

八王子シルバーふらっと相談室 & ふらっとカフェ

八王子シルバーふらっと
相談室館ヶ丘前室長
今泉靖徳さん

若い人の力によって、高齢者が刺激を受け元気になる主体的に活動しています。6年間でつながりが太くなり住民主体の運営に変わりつつあります。

<データ>館ヶ丘団地の全世帯数に占める割合

- * 高齢者世帯(65歳以上) 47.60%
- * 高齢者世帯で独り暮らし高齢者世帯 72.29%

ふらっと相談室

相談員 1名
事務員 1名
(非常勤交代制)

ふらっとカフェ

非常勤職員 4名
住民、学生ボランティア
20~30名(6カ月交代)

館ヶ丘団地 おむすび計画 (熱中症予防)

ラジオ体操
学生による個別訪問
子どもたちによる給水活動
昼食はおむすび

高校生や大学生のための『ふらっと卒業式』の開催

高齢者の方から小中学生卒業生へ『コサージュ』のプレゼント

交流
づくりと多世代
つながり

あかり 茶話会/ITサロン



清瀬視覚障害者グループ「あかり」
左から 村野純子・長嶋潤・山本早苗さん

＊視覚障害者がつながる場所をつくる活動

⇒茶話会とITサロンの開催
(毎月第4木曜日)

★茶話会: 交流と情報交換
予約なし、清瀬市外の方もOK。

★ITサロン: スマートフォンやiPad
の操作方法や便利アプリの使
い方をみんなで勉強

視覚障害の皆さんの足元を灯台のように照らして道しるべになるよ
うな活動をしたいと『あかり』としました。活動を通して新しい出会いが
あり、つながりの輪が広がっています。

＊晴眼者(視覚障害者の対義語)
に対する啓蒙活動
⇒消費生活センターや社会福祉
協議会などのイベントに参加し、
視覚障害者を理解してもらうため
チラシ配布や展示を行う。

「歩きスマホ」
だけはやめて
ほしいです。

清瀬市のごみ袋の
ベロ部分には、触って
識別できるパンチ穴
が開いています。

スマホや iPad
は、音声ガイド
や文字を大きく
できるなどの機
能があり優れた
ユニバーサル
デザインです。



＊視覚障害者の声をま
とめて行政などへ伝
える活動
⇒市議との意見交換会
や新庁舎建設公聴
会などへの参加。

ARCH

Advocacy and
Research
Centre for
Homelessness
[http://archcd.
wixsite.com/a
rch](http://archcd.wixsite.com/arch)

東京工業大学の学生や法律
家、現場ワーカーなどが集ま
り、「2020東京オリンピック・
パラリンピック」に向けてホー
ムレス問題についてのアドカ
シー(政策提言)&研究を行
っている市民団体です。

海外等で行ってきた研究を実社会に活かしたい
と2015年10月から活動開始。参加者も増えて、
その中から運営に携わる人も出てきています。

『東京ストリートカウント』

⇒終電後から始発までの深夜に行く、市民参加型
の路上ホームレス人口調査活動

＊3~4人のグループで深夜の街を隈なく歩いて調査

＊のべ参加人数: 245名(中学生~60歳代)

28大学の学生・職員、10のホームレス支援団体、
11の自治体職員、市民など約6割は学生

＊のべ1300時間、調査距離3700km

＊2016-17の調査結果から

東京中心部11区のストリートカウントの結果か
ら、都による昼間調査の約2.5倍、1412名が路
上ホームレス状態と分かった。

東京都庁や参
議院でも報告。



ARCH共同代表
北畠拓也さん

シドニーやロンドンを参考に2020
東京をホームレスの人々を包摂
する「優しい都市」にするために
提言①: 本気で取り組む東京の
姿勢の宣言
提言②: まず家を、次に支援を

学び塾『猫の足あと』

教員時代に子どもの貧困問題
に関わり、教育に関わる者とし
て貧困家庭の学習支援に使命
感を持ち、2011年4月から自宅
で中学3年生を対象に家族全
員で「学び塾『猫の足あと』」
をスタートしました。



学び塾「猫の足あと」
代表
岸田久恵さん

2016年度退職後、自宅近くに売り出された土地を
購入し、『猫の足あとハウス』を建設。1階は教室と
ダイニング、2階は若者の自律支援のためと活動
資金調達のために賃貸住宅。現在5名が入居。

<『猫の足あと』主な取り組み>

- 中学生対象勉強会、小学生対象の宿題クラブ。
 - 中学生の勉強会の前に夕食を提供、入居者の食
事の支援
 - 地域の人への場所の提供
教育カフェ、教職員の学習会、不登校の保護者
の会、地域の団体の懇談会、読書会など
 - 夏休み理科実験教室、東京土建による工作教
室、小学生の遠足、ハロウィンパーティー、クリ
スマス会
- 今後の予定 NPO法人化。ホームページ作成。

住む場所がない、親と暮らせないが、社会に1
人で出なければならない状態の子がまだまだい
ます。最近、行政からの問い合わせもあり、家
庭支援センターともつながって本当に支援が必
要な子どもが来るようになりました。

基調講演 地域でのネットワーク構築の重要性

地域の活動は**奇跡**
を起こす準備

市民とは強い存在でもあるが一方では弱い存在でもあります。

か弱い存在の市民一人ひとりが力を合わせて行動を起こすことで変化を起こすことができます。

“何回訪問してもドアを開けてくれなかった人が初めて開けてくれた”などのちょっとした奇跡の積み重ねが社会の変化を起こしていく。準備してきた先に奇跡は起こる。地域の中の奇跡をたくさんつなげて奇跡の連鎖をつくっていきましょう。



首都大学東京
室田真一准教授

生きづらい現代社会

- 誰にでも起こりうる社会的排除
→ワーキングプア、ニート、ひきこもり..
- 社会的孤立 →カレンダーが空白
- 家族での支えも難しい
→見えない所に生きづらさが生まれている
現代の貧困は誰にでも起こりうる

生きづらさを
解消するために

「つながりづくり」の社会化

- 家族や地域の中で難しくなっていることを、意図的に仕組みをつくる
⇒住民や関係機関とのネットワーク
⇒地域での居場所づくり
⇒来ない人へのアプローチ など

ワークショップ テーマ：つながり、ひろげよう



グループで、リレー報告や基調講演を聞いた感想や自分の活動のやりがいや悩み、今後の活動を広げるためにできることについて、それぞれで考えたことを意見交換をし、その後グループ発表をしました。

<活動を広げるためにできること>

- ★情報発信。情報を発信し続けること。SNSの活用。
- ★若者の興味のあることや、若者が知らない自分たちの経験などを伝える。
- ★人と人とのつながりで活動にひっぱり込む。
- ★他団体とつながりコラボすることにより、担い手不足を解消する。
- ★消費者団体以外とも交流してみる。
- ★生きづらさを抱える人のことを知り、政策につなげる。
- ★多世代との交流。



アンケートより抜粋

- ・今まで知ることがなかった活動を知ることができました。それぞれがみな違う取り組みだったので学べるが多かったです。工夫や実践力がすばらしかったです。
- ・各々の団体がそれぞれ独自の活動をされていて、その活動がとても意味と意義があり興味深く面白く感心して聞かせて頂きました。
- ・それぞれの団体の活動内容、どのように広げていったのか良く分かり、とても良かったです。
- ・講師の実体験からのお話は分かりやすかったです。自分の活動中での体験と重なることが多く、奇跡を起こす準備を続けます。
- ・皆さんと有意義なディスカッションができた。熱意、思いを直接感じられて良かったです。



東京都多摩消費生活センター
宮本智次郎所長

午前中のリレー報告では日ごろの地域の居場所づくりの取り組みから多くを学ぶことができました。室田先生のお話で、活動中での奇跡や感動の話聞いて心温まる思いをしました。また、横のつながりの活動も聞いて心強く思いました。